《結果の抜粋と掲載ページ》

■調査概要		2ページ
■水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏		
【水道水への評価】		
◇水道水の評価は10点満点中7.44点		3ページ
◇飲用としての水道水の評価は10点満点中7.19点		3ページ
◇水道水への不満、「特にない」が1位も、数値は若干下がる 「料金が高い」の数値上昇は、消費増税の影響か？		4ページ
【水道水の飲用実態】		
◇ふだん家庭で飲んでいる水は、約7割が「水道水」。		4ページ
◇3割超が「水道水」以外の水を最も飲んでいる		4ページ
◇水道水の飲用方法、“そのまま”では飲まない人が6割超 一人暮らしの人は、そのまま飲む割合が高い		5ページ
◇飲用方法別の水道水の評価は、「そのまま飲む」人は10点満点中8点		5ページ
■水と災害／東京・大阪・中京圏		
◇不安に感じる水の災害、「ゲリラ豪雨」がトップに		6ページ
◇「ゲリラ豪雨」は、発生回数が少ない大阪圏で“最も不安に感じる水の災害”		6ページ
【ハザードマップの認知と活用実態】		
◇ハザードマップの認知率は、4割未満		6ページ
◇4割超が、自分の地域にハザードマップがあるか「わからない」		7ページ
◇7割超が、ハザードマップを活用していない		7ページ
◇災害時に対する水の備え、“備えてない人”の増加傾向が、より顕著に 東京圏では「ミネラルウォーター買い置き」が激減		7ページ
■日常の水意識／東京・大阪・中京圏		
◇“節水している人”は半数程度にまで減少		8ページ
◇水のありがたさを感じる時、トップ3は「給水制限」「のどの渴きをいやす」「入浴やシャワー」		8ページ
◇水にかかわる経験・認知率の低下が進む		9ページ

【調査概要】

第20回(平成26年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成26年6月5日(木)～6月10日(火)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				